

## 2023年度 小委員会活動成果報告

(2024年1月31日作成)

小委員会名	環境振動性能評価小委員会	主 査 名：植松武是 就任年月：2023年4月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (環境振動運営委員会)	委員長名：大岡龍三 主 査 名：富田隆太
設 置 期 間	2021年4月 ～ 2025年3月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>環境振動評価に関して幅広く議論を行うことを目的としている。また、年度によらず、環境振動評価に係る最新の研究、および実務の動向に関する情報収集を行うと共に、国際規格に係る情報収集と審議を行う</p> <p>初年度：・環境振動評価の現状の課題の整理と問題点の抽出 ・『建築物の振動に関する居住性能評価規準・同解説』（以下、居住性能評価規準）の見直し項目の検討</p> <p>2年度：・環境振動評価の課題や問題点についての議論を進める ・居住性能評価規準の見直し項目の議論</p> <p>3年度：・環境振動評価の課題や問題点についての議論を進める ・居住性能評価規準の見直し項目の議論</p> <p>4年度：・環境振動評価の課題や問題点についての検討結果をまとめる ・居住性能評価規準の提言をまとめる</p>	
委員構成 (委員名(所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：植松武是(北海学園大学) 幹事：稲井慎介(戸田建設) 委員：石川孝重(日本女子大学)、石川理都子(SKC振動技術研究所)、鈴木雅靖(鹿島建設)、川久保政茂(円石コンサルタント)、国松直(元産業技術総合研究所)、新藤智(西日本工業大学)、富田隆太(日本大学)、濱本卓司(東京都市大学名誉教授)、久木章江(文化学園大学)、松下仁士(竹中工務店)、松本泰尚(埼玉大学)、横山裕(東京工業大学)</p>	
設置WG (WG名:目的)	時間効果検討WG：居住性能評価規準で一律に1/4乗で加味している継続時間の影響について、次期改定を見据えてより詳しく検討する。	
2023年度予算	100,000円	ホームページ公開の有無：有 委員会HPアドレス： <a href="http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html">http://news-sv.ajj.or.jp/kankyo/s17/AIJ_EVindex.html</a>

項 目	自己評価
委員会開催数	5回(年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会承認企画	
大会研究集会	
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<ol style="list-style-type: none"> <li>開催予定数を超える活発な議論・意見交換を実施。</li> <li>実測データの更なる収集と既往のデータとの比較分析を実現。</li> <li>他の小委員会との合同委員会や異分野の専門家との意見交換を実現。</li> </ol>
委員会活動の問題点 ・課題	1. 活動範囲拡大に伴う実行予算の不足

\* 中間年度には中間評価を、最終年度には最終評価としての自己評価を記入すること。

環境工学委員会用 自己評価欄

2023年度 小委員会活動 自己評価  
(中間年度評価・最終年度評価)

総合評価 (4段階評価)	A	B	C	D
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<ul style="list-style-type: none"><li>・計画していた開催回数を上回る委員会を開催し、活発な議論と情報交換を行うことができた。</li><li>・「時間効果検討 WG」において、実測データの充実を実現し、居住性能評価規準で一律に 1/4 乗で加味している継続時間の影響について、既往のデータとの比較分析を行うことができた。</li><li>・環境振動の「見える化(説明性)」について、他分野の専門家との意見交換を実施し、今後の展開に関する議論を行うことができた。</li><li>・環境振動設計検討小委員会との合同会議を開催し、性能評価図における評価レベルや言語表現などについて意見交換を行い、環境振動評価の現状の課題の整理と問題点の抽出・建築物の振動に関する居住性能評価規準の見直し項目の検討等に資する議論を行うことができた。</li><li>・2024 年度の環境振動シンポジウムの構想を練ることができた。</li></ul>			

● 総合評価は 4 段階 (A>B>C>D) にて、自己評価すること。

● 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。

A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度

B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度

C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度

D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度

● 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価（シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など）に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。

● 提出対象年：設置期間 4 年の場合は、2 年目「中間年度評価」、4 年目「最終年度評価」（1 年目・3 年目不要）

設置期間 3 年の場合は、2 年目「中間年度評価」、3 年目「最終年度評価」（1 年目不要）

設置期間 2 年の場合は、1 年目「中間年度評価」、2 年目「最終年度評価」

設置期間 1 年の場合は、1 年目「最終年度評価」